



よ ば てんびょう 四つ葉点描

きょういくもくひょう 教育目標 「美しく生きる」



四日市市立中部中学校

令和6年9月3日

第10号

やる気に満ちた「やさしいチーム」のつくりかた

わたし がっ こう か 私たちは学校を変えていける

43日の『夏活』はいかがでしたか。「なりたい自分」と「なれる自分」のヒントは見つかりましたか。見つかった人は素晴らしい！見つからなかった人は、2学期の学校生活の中で見つけられるといいですね。

今回の四つ葉点描は、始業式で話をしたことのおさらいです。みなさんが成長をするには、「時間」と「場（環境）」が必要です。一日の大半を過ごす中部中学校が、成長に適した場となるようにしたいのです。

もちろん、今のままでも成長はできます。でも、もっともっと刺激的で学びの多い場にしたい。それには、大人のみならず、生徒300人の力が必要です（キャストとしての意識）。まずは、自分が変わる。そして、自分が変えていく。みなさんの学校は、みなさんの手で変えていって欲しいのです。

中部中が目指す「自律」「協生」「創発」

	自律	自分からやる
	協生	協力してやる
	創発	より良くする

全ての活動のゴールは、ここに集結する！！

Society5.0 どんな力をつけるのか

Society3.0 の工業化社会では、人は決まった時間に出社して決められた仕事をやっていた。次の Society4.0 情報化社会では、知識の量の多い人がたくさんの情報を強みにして活躍できました。しかし、機械・ロボットの出現で工場は人を雇わなくなり、コンピュータや AI の出現で知識の量は、強みではなくなりました。Society5.0 の世界で、人は、ロボットや AI にはできないことが求められます。それは、他の人とは違うオリジナリティ＝自分らしさや感性、〇〇をしたいという強い意志や熱意です。これは、機械には無い、人だからこそ持っているものだからです。

また、「自分だけが得をする働き方」では発展が見込めません。周囲の協力が得られないからです。多種多様な人が協力し、新しい価値を生み出さなければなりません。

だから僕たちは、
組織を
変えていける

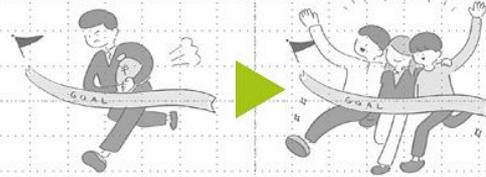
※本誌に採られた「やさしいチーム」のつくりかた
斉藤 徹



人口の減少が進む日本では、同じことをやっている、今より少ない人数で今と同じだけの成果は生み出せないからです。

予測不能で変化の激しい世の中に備えて、自律・協生・創発の力の育成が必要となるのです。

もう一度、自律・協生・創発を目指す理由



損か得か
自分の幸せのみ

自分事・他者意識
みんなの幸せ

より良い学校にするために、「対話」する

1 学期のテーマは、「枠いっぱいを書く」でした。枠いっぱい書けるようになった人は、自分の考えで（他人に伝わるように）あらわすことができてきたと思います。そこで、2 学期のテーマは「対話」です。自分の考えを仲間に伝え、わかりあうこと。そして、それぞれの考えの良いところを集めて、新しい価値を生み出すのです。声の大きな人の意見にそろえるのではありません。みんなの考えを聞いたうえで、「もっと良い方法はないかな。」と考えるのです。「枠いっぱい書く」のは個人の頑張りですが、「対話」はチームの協力が必要です。「対話」が進むようにチームのみんなが何らかの貢献をする必要があります。

「対話」を妨げる行為

- * 相手に対して攻撃的・反抗的な態度をとる
- * 努力を出し惜しむ、一生懸命やらない
- * ネガティブ（否定的）で文句やグチばかり言う

「対話」に必要なのは安心感です。どんなことを言っても許される・・・もっといえば、受け入れてもらえるという関係性です。

反対に、捨てるべきは「変な気配り」です。空気を読みすぎると、本当の自分の気持ち

や考えが言えなくなります。そうはならないように、チームのみんなの良い雰囲気をつくるのが大切です。

あたりまえ + α で、キャストとして行動する

2 学期最初の大イベントは体育祭です。体育祭を成功させるには、みなさんの「キャスト」としての働きが大切になってきます。今まで先生や室長の指示に従い、「言われたことだけやる体育祭」から、300人の創意工夫、気配りや仲間を思う気持ちにより、「より良い体育祭」を創って欲しい。

「あたりまえ + α 」を心掛け、キャストとして関わるためにも、たくさんの「対話」の場面が見られることを期待します。

自律・協生・創発な学校の体育祭

